シャンティ山口 ニュースレター　第153号
発行：2021年12月01日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口　代表 角　直 彦
連絡先事務局 〒753-0221 山口市大内矢田北３丁目9-1　佐伯昭夫　電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：http://www.shanti-yamaguchi.itigo.jp/

「河川 8 August 2021 No.901」より転載（2021.11.18 公益社団法人日本河川協会承諾）

日本水大賞受賞者紹介

タイ北部山岳地域・少数民族の自立支援活動

～森林再生と農村開発～

Agroforestry and Agricultural Development in North Thailand
~From Slash and Bum to a New Concept of Farming~

NPO法人シャンティ山口 理事 事務局長
佐伯昭夫（さえきてるお）
SAEKI Teruo

はじめに

新たに団体を結成した具体的な目標。ラオスから逃れた難民たちがタイの山岳部国境地帯で暮らしていることで山岳地から定住地に生活拠点をタイ政府により移動させられました。定住地は、農地もなく地域の農家や日雇い労働者としてその日暮らしが精一杯でした。

そんな過酷な生活を強いられている時期、1993年3月、モン族の暮らす定住地「センサイ村」を出発点として民族自立のためのお手伝いを始めました。定住化のチャンスを逸し山に残された村人は、生活苦をよぎなくされ崩壊寸前の貧困の村となっていました。

これらの村に、これまでと異なる新しい農業手法で住民の自立を促し持続可能で希望の持てる生活を目標に農村開発を展開し、森林の再生を通して水環境の改善・弊害の解消と併行して地域の保健所・病院など行政との協働連携により安心安全な生活と地域環境づくりを目指し活動しています。

1. 活動内容と実績効果

（1）シャンティ学生寮運営事業

山岳少数民族の子ども達が就学するための奨学金を支給し、進学を支援しています。

少数民族の子ども達が通学するために設立した（外務省草の根無償援助 1996・2002）「シャンティ学生寮」を現地法人「シーカーアジア財団」をカウンターパートとして管理・運営を行っています。寮には、定員50人の中学生・高校生（モン・ミエン・アカ・リス・タイヤイ族の子ども達）が稲作・養豚・養鶏・養魚・野菜作りで自給自足の共同生活をしながら地域の学校に通っています。

父兄たちのほとんどは学校に行きたくても行けなかったことから自分の子供たちに就学の機会を作ったことに感謝と喜びがみなぎっています。大学への希望者が多く、超難関の大学合格者も年々続出しています。卒業生は、教師、保育士、銀行員、弁護士、大手会社員、日系企業の通訳・翻訳士、会社経営者、農業等に活躍しています。タイでは「模範の学生寮」として注目をされています。

① シャンティ学生寮運営事業

シャンティ寮生全員集合　豚の世話　田植えの苗とり　ニンニク畑の草取り

（2）エコトイレ普及開発事業

当初定住先の村の共同トイレは、穴を掘って板をかけただけで屋根はなく竹などで目隠しをして、し尿は地下浸透していました。当時伝染病が蔓延し多くの老人や幼児が亡くなり生き残った数名の子供は、今も脳性麻痺で苦難な生活をしています。村の井戸の水質調査をした結果全部大腸菌で汚染されていましたので、直ちに煮沸して飲むよう指導しました。トイレに起因する伝染病の経路が判明したため、し尿処理方法の改善と地下水汚染の防止策のため、地域の保健所と共同で保健衛生セミナーと安全なトイレの研究開発と設置事業を開始しました。

民族の村落を対象に、これまで河川に排水していた糞尿を活用したエコトイレシステムの普及開発を2005年から着手し、2007年度から「地球環境基金助成事業」とし

※NPO法人シャンティ山口は、「アグロフォレストリーによる水循環の再生と農村開発」で第23回日本水大賞大賞を受賞。

て取り組み、施工は全て現地の利用者が携わり作る過程では住民達のコミュニティや学習意欲、達成感に加え、愛着と清潔の持続を習慣づける指導など継承しています。

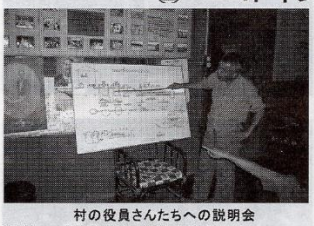
これがタイ王国保健省の基本的推奨モデルとして地域の保健所を通じ全土に普及中です。

システムは、電気不要、汲み取り不要、ガス収集（燃料として使用）、臭気もありません。浄化排水は、畑の肥料に使い、残留水は、飲料可能（雑用水に使用）。設置は、村民全員の協働作業で市販の資材で容易にでき低コストで衛生的で環境に優れ、維持管理もいらないため重宝されています。

また、安全な飲料水の確保もできました。これまで学習の機会がなかったことから安心安全の生活を目指した健康管理にとても期待しています。

これまでの設置状況は、センサイ村個人住宅・シャンティ学生寮・センサイ村モン族文化センター・図書館・シャンティ学生寮豚舎ガス装置・センサイ村共同トイレ・クンガムラン村保育園・クンクワン中学高校宿舎・プラチャーパクディー村保育園・ホイプム村保育園・ホイプム村各世帯　合計84基（うちガス収集装置９基）を設置しました。

② エコトイレ普及開発事業


村の役員さんたちへの説明会

保育園の処理槽とガスタンク

村の共同トイレと処理装置

トイレ設置作業子供たちも「声援で」手伝います

（3）森林再生事業

2013年度から「地球環境基金助成事業」でホイプム村において「遺伝子組み換えトウモロコシ栽培で荒廃した農地を果樹林に」として事業を開始。2015年度から「緑の募金」国際緑化公募事業で地域の村で開始（第一期事業、2015年度～2017年度ホイドウア村）・第２期事業、2019年度～継続中ナムカー村）・３期事業、2021年度～2023年度。

当初から３年経過した時点で転換農地は、目標の110％を完了し、転換全面積220haを最終点に住民一体となって取り組んでいます。

ホイプム村での着手当初は、46世帯（271人）で過疎が著しく村の崩壊寸前のところ住民の団結とコミュニティが希望をもたらし果樹への転換支援完了の2015年時点では、64世帯（375人）と増加し若者の定着による子どもの増加が継続しています。

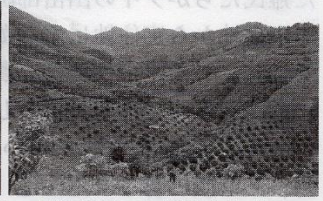
植栽から収穫まで５年～７年要しますが、収穫を迎えると定期的に収入も増加し地産地消で安定した生活が確保できます。

転換当初のホイプム村では、すでに収穫から４年目を経過し収入も向上しこれまで海外（イスラエル・韓国・台湾）への出稼ぎ者40世帯あったが、ほぼ０世帯となっています。

出稼ぎの危険度や数年にわたる家族との別居から解放されとても喜んで果樹栽培に専念しています。地域のモデルとして波及効果も大きく、これまで遺伝子組み換えトウモロコシ栽培の弊害による水源の枯渇、洪水の頻発、農薬による健康障害から回避するため地域の村は、こぞって果樹への転換が急がれていますが、転換への果樹苗木の投資も必要なため苦慮している状況です。

③ 森林再生事業

森林伐採後トウモロコシを植える準備の開発状況


果樹に転換後10年を経過した村の様子

みんなで植栽作業

ラムヤイの苗を植えている様子

（4）民族の自立のために、伝統文化継承等の支援事業

ハンディクラフト製作、商品化助言、指導（伝統の民族衣装の刺繍の技を基に日用品を作成［財布・ポーチ・袋物・タペストリー等］）・伝統文化の継承・女性と高齢者福祉・保健衛生・生活改善・環境保全などの事業を推進し、未来ある子ども達に教育支援を通して、民族の自立を目指しています。（自立の延長としてこれまで関わった女性グループへクラフト製作を依頼し、会員・支援者からの要望のオリジナル刺繍製品の購入も継続しています。）

特に、民族衣装の刺しゅうの技を使って自分たちの手で現金収入を得たことにより生活の足しや子供のおやつを買うことができるのが素晴らしい。

－女性グループ談－

伝統儀式に使う民族楽器ケーンの若者への伝承学習支援では、伝統文化が消滅寸前に陥った中、継承学習のおかげで継承者ができとてもうれしく、また、ケーンの製作技能者へ憧れ、多くの若者が興味を示している。

－村長さん談－

学生寮もそれぞれの民族の伝統文化の継承学習の実践に特に力を入れ毎年の卒業生を送る会に成果を発表しています。

④ 民族自立のための伝統文化継承事業等の支援事業

家族の民族衣装製作中の村の女性たち

女性グループのミーティング

民族楽器（ケーン）の練習

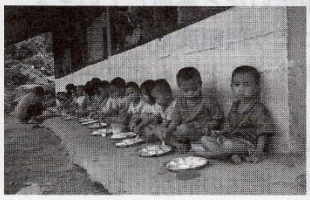
民族舞踊の発表会

（5）保育所事業（すこやか保育）

地域の村の保育所の行事等の協力や絵本・学用品の支給・絵本の読み聞かせ指導・保健衛生指導に加えて施設の補修等の支援を行っています。（山間部の保育所のほとんどは、行政の予算配分も極めて少なく目も届きがちで、タイ国内の大学生ボランティアやＮＧＯに頼っているのが現状です。）

これまで地域山間部の各村の保育所（センサイ村・クンガムラン村・サンティスク村・ホイプム村・ホイドウア村・ナムカー村・バンカー村・プラチャーパクディー村・プラチャーパタナー村・シプソンパタナー村）を対象に支援してきましたが、地域には他に10か所程度保育所がありこれから順次支援を計画しています。

⑤ 保育所事業（すこやか保育）


軒先での保育所の給食

支援後の勉強机を兼ねた給食

給食前の手洗い

ぬり絵やゲームなどのお勉強

（6）保健衛生事業

地域を管轄する保健所の協力を得て定期的に健康管理・母子衛生・妊娠出産・環境衛生などの身近な知識の向上のため定期的に地区の病院・地域巡回医療チームと協働連携し、検診・治療・健康相談や生活環境セミナーを行っています。

⑥ 保健衛生事業

健康管理ワークショップ

巡回医療チームの検診（血圧・血糖値測定など）

母子健康相談

脳性麻痺の子のリハビリケアー

2. ホイプム村プロジェクト完了

ホイプム村プロジェクト「地球環境基金助成事業」
完了式典でのあいさつ
シャンティ山口プロジェクトマネージャー
SAEKI TERUO
(2013.03.08)

みなさんこんばんは、シャンティ山口サエキです。

事業完成に当たり、これまでの経緯など少しお話をします。

私がこの村に最初に来たのは、10年前、一人の小学校６年生の女の子（スパトラちゃん）が、シャンティ寮への入寮応募があり、その子の家庭訪問でした。その時はっきりと印象に残っているのは、家は、竹で屋根は茅葺きの質素な状況でしたが村は、木々が生い茂り緑豊かで自然と共に伝統を継承しながら暮らしていることでした。

４年前、当時の状況から保育園のトイレと教室の必要性から支援することとなり６年ぶりに村に来てびっくりしました。10年前の自然豊かな木々は全くなく一面とうもろこし畑になって、家のほとんどは、ブロック作りで車やバイクがたくさんあり当時を想像することもできない様相の村に変わっていました。

こんな状況の中で村のみなさんと一緒に１年がかりで保育園の園舎の増築とガス利用型エコトイレを作りました。この間経済流通社会が支配するトウモロコシ栽培によりお金は、多く入るようになりましたが、農薬による体の不調・飲み水が少なくなったり・洪水による被害が出たり・土地は痩せ作物ができなくなったり、沢山の弊害と村の危機が迫っていることを知りました。このままトウモロコシ栽培を続けたらこの地に住めなくなり村は、壊滅することは、時間の問題で夢も希望もなくなることもみなさんよく知っていましたが、なすすべもなくとうもろこし栽培に専念し新しい土地を求めて森林伐採を続けていました。

私は、これは大変だと思いシャンティ山口では、日本の皆さんにお願いしてこの村の支援をすることになりました。トウモロコシを止めてお金になる果物の木を植えることになり、みなさんでトウモロコシをやめるために３年間色々と勉強しながら頑張ってきました。

この３年間でみんなの家に自分たちでトイレを作りました。

農業センターでは、果物のつくり方や、増やす方法も勉強しました。

また、政府などの研修所にも行き学びました。

保健衛生や健康管理のセミナーでこれまで知らなかった事を沢山勉強しました。

学習の過程では、みんなで協働・助け合いで力を合わせて続けてきました。

そしてこの村は、このような、とてもいい村になりました。これからは、勉強したことを生かした生活とトウモロコシを早く止めて果物の苗木を植え収穫ができるまで「あと少し」みんなで頑張りましょう。

本当に、みなさんよく頑張りましたとてもいい村になりました。今日は、みんなで創りあげたプロジェクトのお祝いと、来年もプロジェクトが続きますように、そして良い村になりましたので新しい行政の村になるように、皆さんでお願いしましょう。みなさんありがとう。

挨拶中の筆者SARKI TERUOと2008～2018年の間
「苦楽をともにしたホイプム村の皆さん」

3. 今後の目標と展望（将来の活動、事業展開）

これまで培った実績から常に地域のモデルとして波及効果を意識して進行し、地域のリーダーづくりを主眼とし、特に地域行政との連携した事業進捗を図り、民族の自立と行政への引継ぎを目ざして事業展開を行っていきます。また、事業と共に、「SDGs」12項目を目標に啓発活動と実践活動を継続していきます。

ナムカー村「SDGs」セミナー（2019.12）

おわりに

当法人は、組織・人材的にも小規模で職員・役員共に無報酬のボランティアのため活動の手法は、「身の丈に合った」継続的活動と位置づけ、助成金事業においては、大規模の予算事業は叶わないもの、住民ニーズに見合った案件を選択しチャンスを頂いた事業をベースに、活動の過程で工夫を加え事業展開しています。

ほとんどの場合、事業の事前学習を繰り返し住民全員参加理解のもとで参加協働し、困難なことでも極力外部には頼らず住民と問題解決に取り組みます。参加の過程でコミュニティづくりを重点に協働しています。「できばえ」より、学習の楽しさ、達成感、自信に繋がる手法で実践に参加するようにしています。

助成事業の100パーセント達成は、当然のことながら、事業で学んだ住民全員の自立心、将来の夢や希望など数値に表せない実績を成果として評価します。

事業開始の際は、当該村に現地事務所を開設し常時スタッフを置き住民と共に生活することで村の問題点、住民の課題が確認できると共に、住民・地域行政との信頼関係を築くことで事業展開や課題解決への糸口が見えてくるなど目的をより推進できます。また、住民アンケートなど真のデーターが聴取でき住民とのきめ細かな協働プロジェクトが達成できます。

事業の有無にかかわらず平素から障害者、子ども、お年寄りとの対話を密にして日常的にかかわり特に祭事や伝統文化には、積極的にお手伝いなど参加しています。このような関係を築くことにより信頼度も高まり絆が生まれ、より良い関係が継続育成するとともにリーダーも育ってきます。

住民に身近な末端行政（村・社会教育所・保健所・保育所・幼稚園・小学校・役場・地区の病院・森林局・国境警備隊）との密接な協働連携の下で地域に寄り添った事業の進行を行い、事業終了時期には、住民の必要なものについて関係行政に引き継ぎ継続実施を行っています。住民の自立と共に現地行政の責任ある自立も促進するものです。

～「地球環境保全活動」支援募金に、ご協力をお願いします。～

2021.12.01 saeki